

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル3階

HD ニュース

No. 63
2018. 8. 15

今後の予定／於：事務所会議室

8月16日(木)18:30～ 木造技術研究会
(お盆につき中止します)
8月21日(火)18:00～ 相談委員会
9月6日(木)18:00～ 三役会
9月13日(木)18:00～ 理事会
9月13日(木)19:00～ 通常総会

修復士

副理事長 澁谷道子

TVの「スゴ技修復士」という番組に何気なくチャンネルを合わせ見ていたところ、そこで紹介される職人さん達の話が新鮮でした。

一人は庭の修復士、昔は築山のある池を備えた石組みの日本庭園だったのが、いまは草ぼうぼうの荒地でヘドロ池となっている庭を修復するドキュメントです。石組みを修復するのに、石をクレーンで吊りあげてぐるりと回し、見せる向き・角度を修正する。目立つ石を庭園に追加して配し、フォーカスポイントを変化させ庭園の空間の形を整える。自然に雑多な木が育っているの、伐採して見通しの空間を造る。

●作業前

●作業後



庭改修工事(放送されたものとは違います。HPから)

もう一人は桐たんすの修復士。造り酒屋の初代のおかみさんの嫁入り道具だった古びて虫食いだらけの引出。建て付けも悪く引き出せないという桐たんすを、使える様に甦らせる様子を見せていました。

始めに、飾りの鉄板と鋳は曲がらない様に抜き取り、たたいて錆びを落として塗装し、再利用する。桐たんす修復の基本は0.0何ミリという極薄に引く鉤がけで、まず表面の漆や黒ずんだ桐を取り除く。タンスをバラバラの板に解体し、虫食いの箇所はのみで溝状に取り除き、新しい桐の単板を木槌でたたいて縮ませてはめ込み、水で湿してふくらませ、溝に密着させる。その後箱に組立て直す。引出の引け

ないものは、底面の中央を鉤掛けで凹ませ両端のみで滑るように整える。新しく漆を塗り、金物を取付て納めます。



桐たんす 削り直し



使用前 →



→ 使用後

(HPから)

どういう人達かと調べてみたら、普通に造園業、桐たんす製造業の人たちで、修復も承りますと小さく出ていました。マスコミ出演上の肩書として、突然色々な専門職が出来ますが、修復士はなかなか新鮮な言葉でした。

リフォームという言葉は使われ過ぎて、あまりにも薄っぺらい意味になっています。表装の貼り替・塗り替えて見た目の気分が変われば良い、住設機器を新しくして豪華な気分を味わいましょうと、店舗の改装程度に考えられています。店舗は5年持てば十分ですが、普通の建築ならその後10年20年と使い続けていくことを前提にしています。根本的なと

ころから造り直して修復しないと、手を加える前よりも状態や建築としてのレベルが悪くなったのでは手を付ける意味がありません。今までは新しくすると費用がかさむので目先だけで安く済ませようという経済原則のみで考えられていたリフォームでした。今後は現在では手に入らない昔の物に手を加えて使い続けることに豊かさを求める価値観も生まれていく気がします。

建築家はきれいな新築が出来るのは当たり前で、

そこでは差別化は難しくなっていませんか。小さく「建物修復も承ります」と広告を出すのはどうでしょう。空いている部屋は物置・ゴミ部屋と化した使いづらい昔の間取りを現代の生活が出来る新しい空間に造り直す事。構造的に不安のある箇所をどうやったら安全なものに変えられるか。シロアリにやられた柱は建っているままでどうやったら取り替えられるか、なんて話が出る「修復士」はどうですか？

研修会「伊勢・鳥羽歴史探訪の旅」その3 丸栄

技術研修会 津島勝弥

今回は「丸栄百貨店」のレポートです。昨年4月、医薬品メーカーの興和（株）が、傘下にしてきた丸栄を子会社化して百貨店業を撤退すると発表。業績悪化が続いた丸栄百貨店は、今年6月、創業（昭和18年（1943））以来、75年の歴史に幕を下ろしました。

前身母体である十一屋が創業した元和年間からは約400年、現在の栄町ビルの場所に進出した大正4年（1915）からは100年を超える時を刻んできました。私たちは、この栄でどこよりも近代的で、格式張らない建築として「丸栄」にそれぞれの思いを持っています。そして、建築を志し生業としてきた人生で、この建物が村野藤吾の設計であったことは（たぶんほとんどの人が）後から知ったことと思います。

伊勢方面からの研修帰路、夜の都心でバスを降りた私たちは、閉館時刻まで間もない「丸栄」に緊急入館しました。暗いので外観については車中で読んだ資料に託して簡単に説明、東郷青児デザインのエレベーターの扉を一目見るために、店内へ勇んで向

かいました。しかし、誘導役の私にとっては軽く20年のご無沙汰していた「丸栄」。天井のエレベーターの標識を頼りに目指したのは“非常用エレベーター”…。西側壁画の裏にあたる特別避難階段の脇だったのです。増床工事で柱が並び、見かけが太くなっている柱を目印に、店内での方角を察知、2基あるエレベーターの扉絵を見つけることができました。しかし、そこで閉店の店内放送が流れ、滞在時間わずかでの退散となってしまいました。

「丸栄」では、9月の建物解体を前に、百貨店内部の解体が始まっています。消えゆくものを改めて解説しても、実際に確認できないのは空しいばかりです。壁画のタイルの生産者の話、複雑な使用履歴と増築を重ねながらも旧社屋から踏襲されたデザイン、階段室の石張りや鋳物、回転する屋上看板、過去の屋上アミューズメント施設等々。設計者村野藤吾への称賛や評価は、閉館までにしつかりと取材できた人たちによって今後発表されていくものと思います。

■木造技術研究会 7/19 18:30~20:30

「木造伝統工法の実践講座」講師：谷川照雄

■役員会 8/2 18:30~20:30

会員状況と収支概要、各委員会活動について。既存住宅調査技術部会は新規事業とする。一般社団法人住まい管理支援機構との連携を図る。住まい管理支援機構にHDが入会。技術研修会テーマは、既存住宅調査に向けての保険制度について。6月に改正された基準法改正について。建築素材、木材生産現場への視察等の案が出されました。

■技術研修会主催

寛家住宅と米野地区(木造密集地域)・向野橋見学会

30年9月29日(土)(雨天でも開催)

見学時間 14:00~17:00 (資料代500円当日徴収)

集合場所:現地(メールで詳細をお送りします)

名古屋駅南西に残る古民家。折り紙建築でも知られる当主の寛清澄氏に解説いただきます。名古屋市地域建造物資産認定の向野橋(旧山陰本線保津川鉄橋)

見学。終了後、懇親会を行います。

※参加希望の方は事務局まで。

